

平成26年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 81人 国語B 81人

② 算数A 81人 算数B 81人

5 留意事項

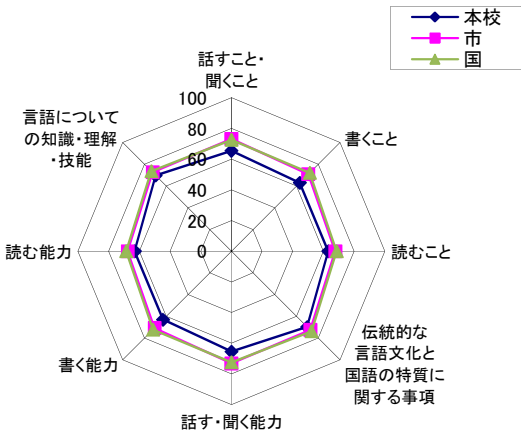
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

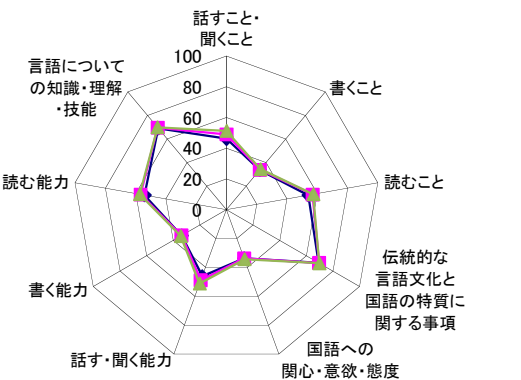
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	65.4	73.1	72.4
	書くこと	63.0	70.8	72.2
	読むこと	63.0	67.6	68.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.8	72.6	73.7
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	65.4	73.1	72.4
	書く能力	63.0	70.8	72.2
	読む能力	63.0	67.6	68.5
	言語についての知識・理解・技能	69.8	72.6	73.7



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	46.1	49.0	51.2
	書くこと	33.7	33.8	34.4
	読むこと	54.1	56.8	57.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.1	69.6	69.8
観点	国語への関心・意欲・態度	33.7	33.8	34.4
	話す・聞く能力	46.1	49.0	51.2
	書く能力	33.7	33.8	34.4
	読む能力	54.1	56.8	57.3
	言語についての知識・理解・技能	69.1	69.6	69.8



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

《傾向》
○「国語が好き」と回答した児童は34.6%、「国語の勉強は大切」と回答した児童は77.8%で、「好き」が全国の肯定回答率を11.7ポイント、「大切」が13.8ポイント上回っている。「授業の内容がよく分かるか」の問いに対して、39.5%、「社会に出たとき役立つと思うか」では72.8%の児童が当てはまると回答していて、全国平均の48.9%・53.6%を大きく上回っている。
○「考えを発表する」「考えを書く」「文章を読む」の3つの問いに対して、3つの肯定回答率は、全国平均より平均約4.5ポイント上回っている。また、「文章を書く問題をどう回答したか」に対して、77.8%の児童が「最後まで書こうとした」と回答していて、全国平均を1.7ポイント上回っている。「時間は十分であったか」では、国語Aは55.6%、Bは32.1%「時間が余った」と全国平均を上回って回答している。
●「考えを発表する」「考えを書く」「文章を読む」の問いに対して「当てはまらない」と回答している児童が3つの平均で10.7%おり、全国平均の7.8%に比べて低い傾向である。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

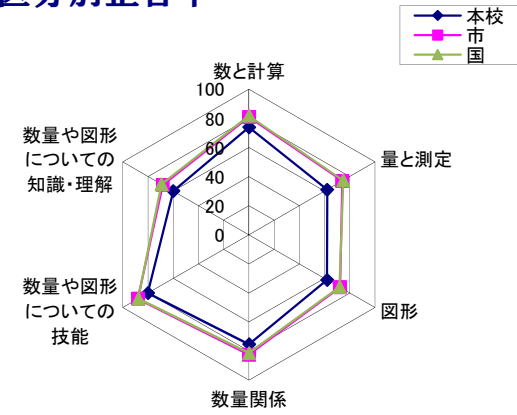
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○日常的な会話はできる。 ●自分の意見を述べたり、友達の意見と比較して考えたりする経験が不足している。 ●会話における共通点や相違点に目を向けて、話を聞いたり、発言したりすることに抵抗がある。	・事実と感想・意見を区別して説明する活動を計画的に取り入れる。 ・話す聞くポイントの合言葉をもとに、日常的に話す聞く態度を育成する。 ・自分と友達の意見とを聞き比べたり、よりよい考えを生み出したりしていくような学習展開の工夫をしていく。
書くこと	○表現のよさを的確に捉え、書くことにつなげ、工夫することができる。 ○情報を読み取り、内容を引用して書くことができる。 ●書くことに対して、最初から諦めてしまい、答えようとしないう児童の割合が高い。	・本、資料、パンフレットなどを参考にしながら、事実と意見を分けて書くよう意識づけた指導を行う。 ・作文指導の中で、意見と理由を述べたり書いたりする型を与えて、書くことへの意欲を高めながら練習していく機会を多く取り入れる。
読むこと	○オノマトペ(擬声語)を使った表現を想像豊かに読み取り、イメージすることができる。 ●自分なりにイメージしたことを具体的な言葉で表現したり、論理的に説明したりすることに習熟が望まれる。	・毎日の音読指導を今後も継続していく。 ・様々な文書を比較して読み、文章の構成、表現、書き方について意識づける言語活動を取り入れる。 ・登場人物の様子や情景描写をとらえる指導を今後も継続していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○故事成語に関心をもち、その意味や使い方を理解している。 ●漢字を書くことには個人差が著しく、十分に理解している児童も多いが、一方で漢字に苦手意識を覚える児童が見られる。	・漢字を正確に読み書きできるようにするために、ドリル学習の量を確保し、意識的に漢字を使用できるように日常的な指導を行う。 ・朝の学習のテストを利用し、既習の漢字を繰り返し書く機会を設ける。 ・該当学年の漢字だけでなく、既習の漢字の復習を定期的に行い習熟を図るとともに、熟語や文章で練習をするように働きかけていく。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

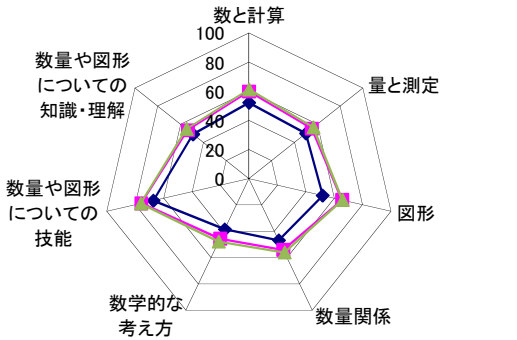
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	73.9	80.8	81.8
	量と測定	62.1	74.0	74.8
	図形	62.0	72.2	71.8
	数量関係	75.3	82.4	81.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	80.2	88.2	87.9
	数量や図形についての知識・理解	60.1	68.4	69.5



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	52.2	59.9	61.3
	量と測定	49.9	55.2	56.5
	図形	51.9	65.6	65.7
	数量関係	46.9	54.2	56.2
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	38.5	45.7	47.8
	数量や図形についての技能	67.3	75.8	76.2
	数量や図形についての知識・理解	49.0	53.6	54.8



★算数に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

《傾向》
○「算数が好き」と回答した児童は42%で、全国肯定回答率を3.6ポイント上回った。また、「算数の勉強は大切」と回答した児童は86.4%で、全国の肯定回答率を14.3ポイント上回っている。「授業の内容がよく分かるか」の問いに対して、48.1%、「社会に出たとき役立つと思うか」では86.4%の児童が当てはまると回答していて、全国平均の44.7%・65.6%を大きく上回っている。
○「新しい問題を解いてみたいか」「分からないときも諦めずに考える」「生活に活用できないか」「もっと簡単に解く方法はないか」の4つの問いに対して、肯定回答率は、全国平均より平均約5.6ポイント上回っている。「時間は十分であったか」では、算数Aは60.5%、Bは42%「時間が余った」と全国平均を上回って回答している。また、「書く問題をどう回答したか」に対して、82.7%の児童が「最後まで書こうとした」と回答している。全国平均より3ポイント上回っている。
●「算数は好き」「授業内容がよく分かる」「新しい問題を解いてみたいか」「分からないときも諦めずに考える」「生活に活用できないか」「もっと簡単に解く方法はないか」の問いに対して「当てはまらない」と回答している児童が6つの平均で13.7%おり、全国平均の7.8%を5.9ポイント上回っていて、算数に対する意識が二極化している。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○たし算とかけ算の基本的な筆算の技能は身につけている。 ●割合における、比較量を求めることが苦手である。	・分数や小数の計算の仕方を再確認し、繰り返し練習を積み上げていく。 ・割合の意味やもとにする量などを確認し、問題から式に表わす練習を行っていく。
量と測定	○体積を求める方法は身につけている。 ●単位量当たりの大きさの求め方がまだ身につけていない。	・体積の公式は覚えているので、それを用いた問題を練習することにより習熟を図っていく。 ・ノート上に数直線などをかくように、文章を自分の分かりやすいように図に表すことができ、さらにそれをもとに式を立てられるようにする。
図形	○コンパスなどを用いる作図の基本は理解できている。 ●示された条件から、長方形を敷き詰めるところでつまづく児童が多かった。	・作図の基本は理解している児童は多いので、図形の性質と操作とを関連付けて理解するようにしていく。
数量関係	○計算の順序についてのきまりを理解して計算したり、計算のきまりを具体的な場面に捉えたりすることはできる。 ●数量の変化や対応の様子を捉え、そこから規則性を読み取ることが苦手である。	・事象を観察して数量の変化を捉え、規則性を見だし、問題解決することができるように、日々の生活から算数の内容と関連付けの確に表現できるように指導していく。 ・数量関係の基礎的な学習については、宿題プリントや計算ドリルを中心に習熟を図っていく。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

- 「学校は楽しいか」という質問に対して「楽しい」と回答した児童の割合は全国肯定回答を8.9ポイント上回っている。
- 「国語が好き」と回答した児童は34.6%で、全国の肯定回答率を11.7ポイント上回っていた。また、「算数が好き」と回答した児童は42%で、3.6ポイント上回った。本校の児童は、国語科・算数科が好きという傾向にある。
- 「国語の授業の内容がよくわかる」と回答した児童が39.5%、「算数の授業の内容がよくわかる」と回答した児童は48.1%で、全国を国語で6.1ポイント・算数で3.4ポイント上回った。
- 「読書は好き」と回答した児童は67.9%で、全国平均を19ポイント上回った。本校の児童は、読書好きである。
- 家庭学習の時間が少なく、テレビやゲームの時間が全国平均より長いという傾向がみられる。
- 「学校のきまりを守っていますか」の質問に対して肯定回答率は35.8%で、全国平均を4.1ポイント下回っている。また、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」の質問に対しての肯定回答率は67.9%で、全国平均を6.2ポイント下回っている。どちらの質問に対して「当てはまらない」と回答した児童がそれぞれ「4.9%」「3.7%」いて、全国より低い傾向である。今後は、教育活動あらゆる場を捉えて指導をし、今よりもきまりを守り、思いやりをもって行動できるようにしていきたい。